

第11回 おいしい水づくり推進懇話会 ＝ 議 事 録 ＝

日時：平成23年7月26日(火)
午後1時50分から4時30分まで
場所：水道局幕張庁舎2階特別会議室

1. 第11回推進懇話会開会 事務局より開会宣言

2. 座長挨拶

平成18年からの中期経営計画も滞りなく終わったと安堵し、新たなスタートというときに大震災がありました。

それによって、水道はライフラインのひとつだということ、おいしい水づくりだけを考えてはいけなさと、すごく実感した数ヶ月でした。

安全でおいしい水を供給できるということは、非常に重要な仕事であり、私たちが協力していかなければならないのではないかと思います。

今回も座長として進行役をさせていただきますが、新しい委員の方も入ってくださったので活発なお話が出来ると良いと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

3. 配布資料説明

4. 議題

計画に基づく主な取組については、配付資料により概要を説明した。各議題概要は、以下のとおり。

(1)「千葉県水道局中期経営計画2011」について（資料-1）[計画課おいしい水づくり推進室]

- 1) 計画の趣旨及び性格について
- 2) 実施計画(5か年の主要施策と主な取り組み)
「安全で良質なおいしい水の供給」
 - ・高度浄水処理システムの導入
 - ・おいしい水づくりの推進

(2)今年度の「おいしい水づくり計画」の施策について

1) 残留塩素の低減化について（資料-2）[計画課おいしい水づくり推進室]

- ① 中期目標への取組と達成状況：平成22年度に中期目標である0.6mg/Lを達成
- ② 長期目標(0.4mg/L)達成に向けた取組
 - ・連続測定装置による残留塩素低減化試験：管内を33系統62ブロックに細分化
 - ・多点注入方式に向けた取組(船橋、園生給水場)：H23～H27に設計委託及び施工
- ③ 委託調査概要と検討委員会の設置

2) 水質監視体制について [水質センター]

- ① トリクロロアミンに関する調査・検討(資料-3)
 - ・おいしい水に関する水質目標の達成状況
 - ・現状のトリクロロアミンについて：濃度は前年度と同程度で抑制されている

- ・浄水場浄水及び配水系統毎給水栓水トリクロロミン調査結果と今後の調査予定
- ②水質センターにおける ISO/IEC17025 の維持(資料-4)
- ・ISO/IEC17025 の認定取得内容
 - ・マネジメントシステムの運用
 - ・取得の効果として必要な管理対象、手順等が明確化されることにより信頼性の高い検査結果が得られる

3)「おいしい水づくりの取組の PR」について(資料-5)[計画課おいしい水づくり推進室]

- ・インターネットを活用した PR 状況: 平成22年度の更新回数、閲覧数等の報告
 - ・平成 23 年度水道「おいしい水」教室、水道出前講座開催状況の報告
- * 平成 23 年度は、夏休み中の 7 月末に実施した。

(3)その他

1)原子力発電所事故後の放射線量の調査結果と対策(資料-6)[浄水課水質管理室]

- ・浄水についての 調査の経過と数値の推移
- ・浄水汚泥について

2)東日本大震災の水道関係の被害、復旧と対策について(資料-7)[計画課危機管理対策室]

- ・被害状況について: 東京湾臨海部に集中、液状化の影響が大きい
- ・応急給水と応急復旧について: 発災から約1カ月で一部を除き断水状態は解消
- ・今後の対策

5. 懇談

主な質疑・意見等は以下のとおり。

(1)「千葉県水道局中期経営計画 2011」について

(委 員):「安全で良質なおいしい水の供給」の中で、以前よく議題にでていた「高度浄水処理施設」について、どのように進めているのか。

(事務局): 現行の「柏井浄水場東側施設」、「福増浄水場」、前5カ年の計画期間中に稼働した「ちば野菊の里浄水場」のほかに、現在、「柏井浄水場西側施設」について高度処理施設導入に向けた事前評価委員会を立ち上げたところである。

(委 員):「千葉県水道局中期経営計画 2011」に掲載された 27 年度末の各目標をしっかりと進めてもらいたい。

(2)今年度の「おいしい水づくり計画」の施策について

1)塩素の低減化について

(委 員): 塩素多点注入は、いつ頃から実際に実施されるのか。

(事務局): 園生、誉田給水場の2か所は、今年度設計委託を行い、平成 24 年度に予算要求、平成 25、26 年度に工事を行う予定である。船橋給水場については来年度設計委託、翌 25 年度に予算要求し、平成 26、27 年度で工事を行う予定である。

(委 員): 設置されている水質監視装置について設置場所が表示されたマップのようなものはあるか。実際に(水質監視装置に)目で見てわかる「計測中」のような表示があれば、一般の方に水道水についてもっと意識させることが出来るのではないか。

(事務局): 設置場所については 62 ブロックに分割した給水区域内でそれぞれ末端、(給水栓水の水质条件が最も悪くなる場所)の公園敷地等を選定している。

住所地番は分かっているので地図に落とすこと(マッピング)は、可能である。

個々の対応は可能だが、ホームページ上での公開など、不特定の方に対しての公開について

は、危機管理上の観点から現状は考えていない。

(委員): 残留塩素の低減化について、測定している場所はどこか。

(事務局): 水質自動監視装置で行っている。

62ブロックに設置されており、成田空港内、花見川団地内にも設置されている。

(委員): (水質監視装置について) いたずら等に対する懸念はもっともであるが、情報公開の時代でもあるので、すべて不開示にするのではなく 62 ブロックを浄水場単位でも色分けする等、見せ方を工夫して広く県民の皆さんにフィードバックするとさらに安心感が増すのではないか。

(委員): 塩素の多点注入の設置基準について考え方を教えて欲しい。

(事務局): 追加塩素注入装置が未設置の給水場の中から適切と思われる機場を優先している。

(委員): 残留塩素濃度が「0.8mg/L」から「0.6mg/L」に下がったことに対して消費者の反応はどのようなものだったのか。

(事務局): 各ブロックから選定しているウォーターメイトからも、概ねご好評を得ている。

(委員): 塩素の注入は、水温との関連があると思うが、受水槽容量と水温について水道局の考え方を教えてもらいたい。

(事務局): 別途設置する検討委員会の中で専門家の意見を伺いながら考え方を固めていきたい。皆様からもアドバイスがあれば、お願いしたい。

(委員): 前5カ年計画の目標であった「残留塩素 0.6mg/L」を実際に成果として達成したのはすごいことだと思うし、水も実際飲んでみておいしくなったと感じている。

(委員): 貯水槽巡回サービスについても、自己責任の範囲外のものに対して無料で点検を行うというのは凄いことだと思う。

民間企業では、このような発想はなかなか出てこないと思う。

2) 水質監視体制について

(委員): トリクロロミンの数値測定方法の確立は、H27 年度末が目標時期か。

(事務局): なるべく早い時期に確立させたい。

(委員): ISO/IEC17025 の取得は当然効果を期待してのものだと思うが、かえって (ISO 関連の) 作業が増えることがあるので本末転倒せず、信頼性の高い検査結果のために努力して欲しい。

(委員): トリクロロミンの測定方法のところがよく理解できていないので、もう少し分かりやすく説明して欲しい。

また、トリハロメタンとトリクロロミンの違いはなにか。

(委員): トリハロメタンは塩素があることで発生してしまう発がん性物質で、トリクロロミンはアンモニアと塩素が反応することで生じる臭い (カルキ臭) が問題になる物質。

塩素単体での臭いは気にならないが、アンモニアやクロロミン等と反応することで塩素臭 (カルキ臭) を感じやすくなり、おいしさの観点で問題が出てくる。

(委員): トリクロロミンについては、解決方法が決まっていないのか。

(座長): 確立された測定方法がないので (トリクロロミンの) 目標値が決められない。

(事務局): 測定についてはいくつかの方法があり、検査をすれば数値は出るが、濃度値の大きさと臭いを感じる強さの相関性が得られていないので数値の取扱いに苦労しているところである。

これは、他水道事業体も同様の問題を抱えている。

(委員): クロロミンについては近年、測定する方法は分かってきたが、測定していくうちに臭気の原因物質がいろいろと出てきて、クロロミンの数値だけを下げられれば水道水がおいしくなるのか疑問となっているという見解で良いか。

(事務局): それで結構である。

(委員): (ISO17025 について) PDCA の話をするのであれば、もっと具体的な事例を入れて詳しく説明して欲しい。

3)「おいしい水づくりの取組の PR」について

(委員): 出前講座でポタリちゃんの着ぐるみを出していると聞いたが、夏の時期の着ぐるみは大変だと思う。

(事務局): NPO が熱心にやってくれている。

(委員): おいしい水教室の開催時期については、小学生の子どもを持つ親として夏休みにやってくれると助かる。

夏休みの宿題で「水道のポスター作り」が出されていたりするので、親子でこういうイベントに参加すれば、家庭で水道水についての話題も弾むと思う。

(座長): 事務局の企画の読みが当たったということですね。

(委員): 先日、自分もおいしい水の教室と似たようなことを 20 分×7 回行った。1 回あたりの参加者は 25 名程度で多くの子どもが、自由研究の題材にするためにやってきていた。

このことから「おいしい水の教室」のニーズはすごくあると思う。

こういったイベントを増やしてポタリちゃんの着ぐるみを使えば小学生くらいの子どもはとても喜ぶと思うので、もっと上手くアピールできるのではないかな。

オフィシャルサイトに、今回の放射線の話について、ポタリちゃんを使ってもう少し分かりやすく載せるなどすれば、水道への理解も深まるのではないかなと思う。

(委員): 一般の県民には水道局の取組があまり耳に入っていない。

もっと県民に効果的にアピールできる方法を考えてみてはどうか？

(委員): ポタリちゃんは魅力的なキャラクターなので、グッズの販売を考えてもいいのではないかな。

ちばポタにしても、あまり広告等で目にするのがない。

水道出前講座の取組も、もっと PR するべきではないかな。

東京都の「東京水」レベルまで露出度合いを増やすべき、とまでは言わないが、黙っていても目につくような何かを考えるべきと思う。

(委員): PR が少ないという意見もあるが、ポタリちゃんは、よく見かけるようになった。

このところ、高校野球中継を千葉テレビで放映しているので見ているが、水道のコマーシャルもずいぶんやっている。

おいしそうに子供が水道水を飲んでいるシーンを見ると、良いメッセージを流しているなと思う。

(事務局): これまでの PR 活動については一定の評価がされていると理解したうえで、さらなる PR をどのように展開していくかということについては、皆様の意見をもとに考えて行きたいと思う。

(委員): “ちばポタ”はまだ販売しているのか。

(事務局): 昨年のちば国体記念で製造したが、評判がよかったので国体終了後も別バージョンのパッケージにデザイン変更し、県庁生協など一定の場所で販売している。

(委員): もっと色々なところで販売はしないのか？

(事務局): コンビニ等に声かけしたが原価率が高く商売にならないので取り扱ってもらえなかった。

(委員): 自治体の公民館とかに置いてもいいのではないかな。

(事務局): 給水区域内の自治体と協力して、という方法はあるかもしれない。

(委員): 例えば県の会議の時に提供するとか、もっとポタリちゃんを前面に押し出していけば良いと思う。

(事務局): 6 月議会から一部で提供を開始し、また常任委員会では以前から提供している。

(委員): 「県水だより」が年に何回か新聞の折り込みチラシと一緒に入ってくるが、注意して見ていないと中々見る機会がないと思う。

水道の使用明細と一緒に小さな「県水だより」のようなお知らせを入れられれば、情報に接する機会が増えて、もっと良い情報提供が出来るのではないかな。

(3) その他

1) 原子力発電所事故後の放射線量の調査結果と対策

(委員): 今後も降雨による放射性物質の原水への混入が気になるがどうか。

(事務局): 3月15日以降、放射性物質の大気中への拡散がないと言われているので心配ないと思われる。

(委員): 放射線量と水道水の安全性に関して明確な基準となる数値をアナウンスすることが消費者の安心に繋がると思う。

ベクレルやシーベルトなど単位が混在して一般の方は混乱しやすい。

また、今回の配布資料に“「原子力安全委員会が定めた飲食物制限に関する指標」の考え方”が書かれているが、マスコミもベクレルやシーベルトの数値だけでなくこのような背景をもっと説明してくれれば良かったと思う。

3月に放射性物質が検出されたときは、直ちに取水を停止するなどの対応は、早く良い判断だったと思う。

私たち消費者もいろいろな情報に惑わされて意味のない買い占めや不安をあおるような消費行動をすることは、避けるべきと考えている。

2) 東日本大震災の水道関係の被害、復旧と対策について

(委員): 今回の地震で自宅が断水した。

素早い復旧で期間は短かったが、いくら水がおいしくなっても断水してしまうと飲めなくなってしまうので、もっと耐震化を進めてほしい。

(委員): 水道局は放射能関係(水道水への混入、浄水汚泥からの検出)で叩かれることが多かったが、仕事の成果をもっとPRして良いのではないか。

上水道の復旧が(下水道などに比べて)とても早かったことを強調したり、(汚泥の後処理の話はあるが)浄水汚泥から放射性物質が検出されたことについては、水道水からは浄水処理過程で放射性物質は除去されている、という点をうまく一般消費者に伝えられないか。

3) 水道水の安全性とおいしさ

(委員): 原発事故の後、浄水場から指標を超える放射性物質が検出されて不安になった。

また、東京都がボトル水を配布しているというニュースを聞いて、水道離れが起きないかとも考えたが、結局ボトル水だけでは生活は出来ないと思うし、水道水が安全だというアナウンスがされればそれを信じるしかない。

(委員): おいしい水づくり推進懇話会に係わっているからかもしれないが、千葉の水道水は確かにおいしくなったと感じるし、子どもたちにはペットボトルに水道水を入れて冷やしたものを持たせている。

友人にも水道水は冷やすとおいしいと勧めている。

今回ウォーターメイトが代替わりしたことについても、水道水に関心を持って宣伝する人が増えるのでいいことだと思う。

ちばポタのデザインではポタリちゃんはかわいいけれど、ちょっと小さめだと思うし、水色でインパクトが弱い。

(委員): 原発事故の後、水道水をあまり飲まなくなった。

「あの家にいったら水道水を飲まされた。」と言われるのが嫌で、遊びに来る子どもたちにも水道水を勧められなかった。

近所の保育所の砂場で放射線の高い数値が検出されて、周囲もかなり敏感になっている。

(委員): 委員として活動していることで、水道水に対する理解が深まり、私の場合は、人にも積極的に勧めている。

原発事故後の騒動についてもパニックを起こさずにすんだ。

5. その他

(1) 次回懇話会実施予定: 例年通り2月か3月に第12回の開催を予定している。